



春合宿 総括

お世話になっております。91代副将の山田です。
2月から始まった春合宿についてご報告いたします。
私にとって最後の春合宿も終わり、インカレまでの時間が刻一刻と迫っていることを実感しております。今代では、ヨットの上達にはより多くの出艇日数が不可欠であると考え、今年の春合宿では5日ターム制を導入し、例年より練習日数を増やしました。ターム後半には疲れも見られましたが、春合宿を乗り越えたことで、部員全員が精神的にも体力的にも成長したと感じています。個人的に印象に残っているのは、春合宿初期に部を代表して参加した浜名湖でのセールトレーニングキャンプ（STC）です。講義で新たな知識を得たほか、他大学の練習方法を学び、それらを春合宿の練習改善に活かしました。また、STCで実施されていたトレーニングを部に持ち帰り、風待ちの時間に取り入れるなど、新たな取り組みの定着にもつながりました。チームとしては、陸上でのミーティングの時間を重視し、練習改善ミーティングの導入を進めました。同志社ウィークで各艇が必要な技術を整理し、それを習得するための練習内容について毎日議論を重ねました。その結果、特に下級生を中心に、練習に対する目的意識が高まったと感じています。
長期間にわたる春合宿でしたが、振り返るとあっという間でした。春合宿で身につけた技術や体力を維持しつつ、4月の新歓にも全力で取り組んでまいります。

卒業生歓送会

平素よりお世話になっております。新3回470クルーの小村一徳です。2月28日に行われた追いコンについて報告いたします。追いコンとは、昨年11月の江ノ島インカレをもって引退された90代の先輩方を送り出す歓送会のことです。京都駅前のホテルの会場で行われた追いコンでは、立食を交えながら引退された先輩方の答辞や、運営面、金銭面でご支援してくださるOBの方々の式辞を拝聴しました。また追いコン終了時に就航歌やダークブルーを斉唱し、チームとして団結力を高めました。その後1次会は解散となりましたが、2次会ではありがたいことに班ごとに分かれて90代の先輩方に食事に連れてってもらいました。私の場合は高級な肉料理をご馳走になり、さらに詳細は省きますが夜のお店で有意義な体験をさせていただきました。懐を寂しくさせながら、懐のとても深い先輩方が引退されたことに一抹の淋しさを覚えました。これからは自分がそちら側に近付いていっているという意識を持って、今後さらに気合を入れて尽力して参りますので、よろしくお願い致します。



3月ポイントレース

平素よりお世話になっております。新2回生470クルーの瀧愛美です。先日の3月ポイントレースの報告をさせていただきます。予報では安定した北風3~4m、ブローで6mほどの風でしたが、出艇する頃は予報より弱い南風でした。そんな中で第1レースが行われました。下デッキから中デッキほどの風で、1動作1動作丁寧にやることに集中しました。しばらく沖で風待ちをし、東に風が回って第2レースが行われました。ほとんど風のない中、必死にスピンを張りました。長い長い風待ちの末、ようやく予報通り風が北から入ってきて、第3レースの予告信号が上がった頃にはオーバーでした。急いでピンダウンをして第3レースに備えましたが、ゼネリコの後、次のスタートではブラックが上がっていたものの上の船に恵まれず、リコールしてしまいました。11月のPPPの経験を活かして臨んだレースでしたが、思うようにいかないこともありました。春合宿も残りわずかとなりましたが、最後まで走り抜けて、技術の向上に励みます。



部内新人戦

お世話になっております。新2回生スナイプスキッパーの青野千咲月です。4月1日の部内新人戦について書かせていただきます。まず午前中は懐かしのホッパーレースを行いました。普段ティラーを握らないクルー陣は非常に楽しそうで、テンション上がりまくり、スキッパー陣は振り回されながらも必死に指示をして、順位を競いました。どこかが沈めると拍手がわきおこり、速い艇はぐるぐる回転させられるなど理不尽なこともありましたが、とても盛り上がり、楽しかったです！着艇後は、レースの順位に応じてお昼ご飯をもらいました。うまい棒からお寿司まで幅広くありましたが、うまい棒の人にみんながご飯を分けてあげるなど93期の優しい面が見られました。その後のレクでは、どのレクにも普通とは少し違ったアレンジが加えられていて、とても楽しく、92期のセンスが光っていました！最後は恒例の正装でした。みんな独特のセンスでおもしろく、初参戦だった女子たちもやり切りました。一緒に乗り越えてきた慌ただしい1年の締めくくりとしてとても良い会になりました！



東大交換合宿

新2回生スナイプクルーの鈴木瑛太です。3月4日から6日にかけて行われた東大遠征の振り返りをご報告します。

今回は集合時間が早かったこともあり、前日に夜行バスで横浜入りしました。雨中の観光を経て東大の合宿所に前泊しましたが、京大の合宿所と比較して非常に新しく、整備された環境に驚かされました。

遠征初日の午前は強風のため出艇見合わせとなりましたが、その時間を活用して東大の主将をはじめとする部員の方々と交流できたことは、非常に有意義な時間となりました。午後は、早稲田大学が出艇を見送るほどの爆風の中、コース練習を敢行しました。私は一番艇に乗らせていただきましたが、1位でフィニッシュした直後、強烈なブローに見舞われランチャーが「くの字」に折れるというトラブルが発生しました。ランチャーの破損を経験したのは初めてでしたが、その脆さと、限界域での扱いの難しさを痛感しました。幸いにも、その日のうちにスナイプリーダーと折半して予備を購入し、翌日の出艇に備えることができました。

2日目の午前「浜清掃」が実施され、慶應や早稲田の部員と共に砂の運び出し作業に従事しました。「一体何をしに遠征に来たのか」と一瞬戸惑いもしましたが（笑）、他大学との共同作業もまた遠征ならではの経験であったと感じています。午後は一転して、非常に学びの多い練習に打ち込むことができました。

3日目は終日出艇し、新3回生の浅田さんとペアを組ませていただきました。風向・風速の変化が激しく苦勞しましたが、特にトレイン（回航練習）では、風の読みやマーク回りのポジショニングなど、実践的な技術を磨くことができました。また、470級との合同コース練習において、スナイプ内トップでフィニッシュできたことは大きな自信に繋がりました。今回の遠征を通じ、練習方針や整備、動作のプロセスなど、東大と京大の文化の違いを肌で感じ、非常に興味深く思いました。また、他大学の新2回生と交流できたことは、今後の競技生活における大きなモチベーションとなりました。こうした貴重な機会を糧に、これからも日々の練習に精進してまいります。



京阪神大公交換合宿

お世話になっております。新2回スナイプクルーの佐藤晃右です。先日京都大学、神戸大学、大阪大学、大阪公立大学の合同合宿に参加しました。

一日目は初めての西宮での活動となり、初めての海での帆走には多くの驚きがありました。「海でもこれほど風が振れたり回ったりするのか」と感じる一方で、風量の差については琵琶湖の方が大きいようにも思いました。私は神戸大学のチームに配属され、スナイプリーダーの指揮のもと練習に参加しました。神戸大学の練習は京都大学とは異なり、サークリングやトレインの練習が中心でした。動作や回航を正確にこなすことで他艇を抜かすという方針でしたが、普段の練習とは勝手が違い、最初はついていくのが精一杯でたじろじになってしまいました。この季節ですが、ドライスーツの中は汗びっしょりになり、久しぶりに激しい喉の渇きを感じるほど充実した練習でした。

二日目の午前是一日目と同様の練習を行い、午後からは5本ほどのコース練習に臨みました。一日目と比べて、素早い動作やシート操作にも少しずつ慣れてきましたが、まだまだ自分の実力不足を痛感する場面もありました。午後は風向きが北から南の海風に変わり、安定した強風が吹く中でのレースとなりました。第1レースはスタートで埋もれてしまい、芳しい結果ではありませんでしたが、第2レースからはスタート前のウェイティング位置を意識して修正しました。即座に帆走に集中し、積極的にブローを取りに行く走りをした結果、圧倒的な加速や流し込みでの上突破も達成でき、納得のいく順位を残すことができました。最終的に京阪神の中で総合1位を取ることができ、非常に良い締めくくりとなりました。西宮のヨットハーバーは多くの大学が集まって活気があり、とても楽しい雰囲気でした。この交換留学は毎年恒例の行事ですので、来年はさらに成長した姿でまた参加したいと考えています。



同志社ウィーク 470級

470チーム新4回生の篠原です。去る3月28日・29日に開催されました「第42回同志社ウィーク」についてご報告いたします。

本大会の470級には、主に琵琶湖・関西水域の大学から59艇がエントリーしました。両日とも午前中は風待ちによる延期を挟みましたが、昼前から風が入り始め、28日に3レース、29日に1レースの計4レースが実施されました。

今大会における470チームの全体順位は、例年に比して高い水準となりました。特に上位3艇については、招待選手や同志社大学のトップ層に食い込み、7位・8位・9位を独占する結果を残しました。現チームが着実に力をつけ、軌道に乗ってきていることを強く実感させるレガッタとなりました。

自艇の結果については、1レース目こそ満足のいく順位で滑り出したものの、2レース目でスタートの失敗が響き、挽回できないまま大きく順位を下げる形となりました。3レース目以降は、その遅れを取り戻そうと気合いを入れ直して挑みましたが、悪い流れを断ち切ることができず、最終的に目標順位には届きませんでした。

目標未達成という結果は非常に悔しいものですが、約1ヶ月半におよぶ春合宿の成果と、現在の自分自身の技量・精神面の課題が如実に表れたと感じています。多くの学びを得られたことは大きな収穫でした。

全日本インカレまで残り7ヶ月を切りました。今大会で得た糧を無駄にせず、本格的なレースシーズンに向けてチーム一丸となって精進してまいります。今後ともご指導のほどよろしくお願いいたします。



同志社ウィーク snipe級

お世話になっております。新3回生スナイプクルーの不破倭志朗です。3月28日、29日にかけて行われた「第42回同志社ウィーク」の結果をご報告いたします。本レガッタは、我々の目標であるインカレを上回る88艇が参加するビッグフリートであり、貴重な経験の場となりました。自艇のペアも本大会を目標に、春合宿を通して準備を重ねてきました。両日とも午前中は風待ちにより出艇が見送られましたが、午後には安定した風が吹き、1日目に3レース、2日目に1レースの計4レースが実施されました。風待ちの時間に集中を切らさず、出艇時に良い状態でレースに入ることの重要性を改めて感じました。自艇は本レガッタでリザルト10番代、安定して順位を取り続けることを目標として掲げ、その達成に向けて春合宿で練習してきました。第1レースでは4位でフィニッシュすることができ、最終的にも目標としていた成績を収めることができました。一方で、第2、3レースでは思うようにレースを運ばず、安定して順位を取ることに難しさを痛感しました。また、スナイプチーム全体としては目標を達成できなかった艇は少なく、ビッグフリートの難しさを改めて実感するとともに、多くの課題が残るレガッタとなりました。

さらに、招待された社会人選手による講習会も行われ、新たな知見を得る貴重な機会となりました。今回得られたものとしては、ビッグフリートでのコースの引き方、スタート時のポジショニングや他艇への対応の仕方でもまだまだ自分の実力のなさを感じ、改善の余地があると思えました。今後はこれらの課題をチーム内で共有し、練習の中で再現性を高めていきたいと考えています。

チームとしては厳しい結果ではありましたが、春合宿を終えた現時点での実力を把握し、今後に向けて気持ちを切り替える良い機会となりました。ここから改めて気を引き締め、新歓およびレースシーズンに臨んでまいります。



部員リレーインタビュー



snipe スキッパー
西明賢

何かと多忙な彼である。スナイプスキッパーとして日々研鑽を積みながら、弁護士を目指して勉学に励む、二足の草鞋の努力家だ。多忙ゆえか、体調を崩して練習を欠席することもあるが、あまり無理はしないしてほしい。風を読み、夢を追う彼の今後の活躍に期待したい。

思い出のレース 平日の過ごし方

何と言っても忘れられないのは新人戦だ。途中から風が急に吹き上がり、強風が苦手な私はただ翻弄されるばかり。さらに風は強まり、ついにはハザード状態。今にも転覆しそうな船、耳元で唸る風、飛び交う怒号。限界だった。それでも何とか着艇し、先輩にももらったコーヒの美味しさが妙に心に残っている。恋だろうか。

とにかく多忙である。司法試験の勉強、部活動、バイトに恋愛など、やるべきことはいくらでもあるのだ。しかし、本物のエリートは遊ぶ努力も怠らない。この考えのもと、私は友達付き合いをわらかし大事にしているつもりである。ちなみに、恋人に関してははいる未来が見えないから、課題は一つ減ったと言える。やったね！

尊敬する先輩

やはり後藤先輩だろうか。ヨットに乗れば速くてカッコ良く、陸に上がれば優しい笑顔のナイスガイである。即ちただのかわいい人だ。また、私がヨットのことで悩み、質問すると快く対応してくれる。内面までカッコいいのだ。この人に何が足りないというのか。そう、単位だ。神は二物を与えなかった。留年である。

これまでの部活を振り返って

「置いていかれている」と感じ続けている。これが今の実態だ。これはネガティブ思考ではなく、ただの事実である。帆走練でもそう、周りの同期に対してもそうである。だからこそ、自分に何ができるのかを考え続けてきた。思えば劣等感が私の努力の源である。何はともあれ、目の前の課題を着実にこなしていくしかない。



470 スキッパー
小川 祥太郎

根っからの大阪人。ヨットへの情熱は部内でもピカイチで真面目でコツコツ努力する姿勢もあり、任されたことには責任感を持って取り組む。否定から入りがちなのもあり誤解されることがあるが仲間思いの一面もあり、周りとのコミュニケーションも大切に。未経験470スキッパーとして走る姿を期待している。

思い出のレース 平日の過ごし方

私の思い出のレースは、1回生のときの新人戦です。470で初めて出たレースです。乗り始めて1週間も経たないほどだったのでまったく右も左もわからない状況でした。途中沈することもありましたが、先輩クルーの助けでなんとか走り切りました。その後470を練習する上で指針となりました。

私は平日は大学で過ごすことが多いです。授業に行き見識を深めたり図書館で自習したりしています。また部費を稼ぐためバイトにも勤めています。もちろん忘れてはいけなは自主練です。週に2回の練習なので感覚を失わないようにまた、自分の課題にピンポイントで取り組めるように、自主練を行なっています。

尊敬する先輩

私の尊敬する同期は中村さんです。彼女は高校でヨットをしておりヨットへの見識は僕たちプレイヤーを上回るものがあります。一方で彼女を尊敬される人たらしめるのはその心の美しさにあります。僕たち同期のことを誰よりも思いやり、気にかけてくれています。すなわち聖人です。そんな中村さんのサポートに伝えられるように頑張りたいと思います。

これまでの部活を振り返って

これまでの部活を振り返って私はこの部活に入って本当に良かったと感じています。それはまず人との出会いという意味においてです。ヨット部はさまざまなバックグラウンドからさまざまな人が入部してきます。まるで社会を見ているようで非常に勉強になっています。また、共に練習に励んでいる同期もかけがえのない友達です。次に目標達成という意味においてです。競技における技術課題などを分析し、それに対して必要な練習を設定する力はこれからの人生でも役に立つだろうと考えています。

思い出のレスキュー

夏遠征の江の島での一コマ。この日は、スナイプ級のレスキューでした。選手が帆走で上り続ける中、最後はハーバーまでなんと2時間のロング曳航！これほど長い時間は初めてでしたが、富士山を眺めながらおにぎりを食べたり皆で写真を撮ったりした時間は最高に楽しかったです。練習の厳しさだけでなく、自然の美しさを仲間と共有できるのはヨット部ならではの贅沢。私にとって忘れられない夏の思い出になりました。



思い出のマネ飯

お世話になっております。4回生マネージャーの青田聡史です。僕の思い出のマネ飯は、タレから自作した回鍋肉です。自他共に認めるヨット部随一の回鍋肉好きとして、「いつか必ずマネ飯で出してやる！」と野望を抱いていました。しかし、いざ当日。レシピに並ぶ「〇〇醬（ジャン）」の羅列に圧倒され、計量スプーンを出すのも億劫になった僕は、「イー・アル・サン・スー！」とリズムを刻みながら目分量で調味料を投入しました。結果、〇〇醬もどこかへ消え去り、醤油の大勝利という、ある意味で潔い一皿が完成しました。それでも、着艇後の疲れ切ったプレイヤーからの「美味しかった！」の一言は、今でも忘れられません！次こそは、誰が食べても「おいしい！（好吃）」と叫ぶ完璧な一皿を再現してみせますので、ぜひInstagramアカウント（@kuyc_food）で見届けてください！



他にも公式のInstagramのアカウントとは別に、今まで作ってきた紹介しきれないほどのたくさんのおいしいマネ飯を発信しているインスタのアカウントがあるので、是非そちらもご覧ください！
右のQRコードを読んでもいただくか、
https://instagram.com/kuyc_food?igshid=MzRIODBiNWFIZA==
こちらのリンクから飛んでもいただくと閲覧可能です。



京都大学体育会ヨット部
滋賀県大津市鏡が浜番外地
京大ヨット部艇庫
[[hp] <https://www.kuyc.home.com/>

[mail] kuyc.contact@gmail.com

https://twitter.com/kuyc_

<https://www.facebook.com/kyoto.sailing/?fref=ts>

https://www.instagram.com/kuyc_food/?hl=ja